

# コロナ禍の中、万全の感染症対策を講じ、 全港湾第91回定期全国大会開催 郵便投票を駆使し新執行部を選出



全日本港湾労働組合の第九一回定期全国大会を、九月二十四日、二十五日の二日間、シーパレスにて開催した。全日から大会代議員六十一名、中央本部役員一八名が出席、委任状提出者が大会代議員二七名、中央本部役員一名、議長団は部原幸司代議員（九州）、秋山光明代議員（北海道）が務めた。

今回の大会は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により開催が危ぶまれるという前代未聞の状況にあったが、八月に開催した臨時中央執行委員会において「感染症法及び激甚災害法に基づく非常時における組合規約・規定の限定的緊急特例措置案」を大会に提出し、緊急措置として、委任状提出者を出席として扱う、郵送による議決権行使を実施する、郵送によるスト権投票を実施する、郵送による役員改選となる。今日まで尽力

真島中央執行委員長は「新型コロナウイルスの影響により過去に前例のない形での大会となったが、皆さんの協力の下、郵便投票も代議員八八名中八八名が届いた。現在、港湾においてもトラックにおいても非常に厳しい状況が続いているが、労働組合として何が出来るのか、活発な議論をお願いする」と述べ、感染予防第一に努めながらも、全港湾が先頭に立って運動して行くことを強く呼びかけた。

議案については、本部案を支持する立場からの発言が相継ぎ、意見・質問などの発言を受けた。そして、更なる運動の前進に邁進していくと

されてきた大野進副委員長（関西）、諸見力書記次長（沖縄）、藤崎良治中執（関西）、土野行中執（日本海）の四役員が退任、新たに鈴木龍一（日本海）、山田昌悦（日本海）、松谷哲治（関西）、松谷哲治（関西）の七役員が選出された。

第九一回定期全国大会の開会にあたり、執行部を代表して真島中央執行委員長は「新型コロナウイルスの影響により過去に前例のない形での大会となったが、皆さんの協力の下、郵便投票も代議員八八名中八八名が届いた。現在、港湾においても非常に厳しい状況が続いているが、労働組合として何が出来るのか、活発な議論をお願いする」と述べ、感染予防第一に努めながらも、全港湾が先頭に立って運動して行くことを強く呼びかけた。

## 2020・21年度 役員一覧

中央執行委員長	真島 勝重 (日本海)	再任
副中央執行委員長	鈴木 誠一 (関東)	再任
書記長	鈴木 龍一 (日本海)	新任
書記次長	畠山 昌悦 (関西)	新任
中央執行委員	松永 英樹 (九州)	再任
中央執行委員	松谷 哲治 (九州)	再任
中央執行委員	川村 俊 (北海道)	再任
中央執行委員	新妻 秀樹 (東北)	再任
中央執行委員	矢代 正人 ( "	再任
中央執行委員	面谷真奈樹 (日本海)	新任
中央執行委員	佐藤 正巳 ( "	新任
中央執行委員	佐藤 史生 (関東)	再任
中央執行委員	鈴木 勝也 (東海)	再任
中央執行委員	河野 照宜 (関西)	新任
中央執行委員	樋口 万浩 ( "	新任
中央執行委員	橋崎 正伸 (四国)	再任
中央執行委員	山中 直樹 (九州)	再任
中央執行委員	山口 順市 (沖縄)	再任
会計監査委員	大賀 隆幸 (関東)	再任
会計監査委員	大野 裕康 (東海)	再任

所の再稼働がある。そして、石炭荷役が減ればRTG遠隔操作の問題より遙かに重大な雇用問題となる。対策会議を早急に開催し対策をとってほしい。自動化・機械化の問題、指定事業体の問題、他労組の共闘の問題等々多々あるが、本音で語り合い団結を強化し、新型コロナウイルスを乗り越え労働運動を強化前進させていこう」と総括した。

そして最後に、二〇二〇・二一年度の運動方針を満場一致で確立した。

**第二議題 一九年度決算報告、会計監査報告、二〇年度予算**

決算については、全港湾会館のリフォームを含め、ほぼ予算通りの執行となり問題なし。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響で会議等が実施できなかった部分もあり、二〇二〇年度予算案は、二〇二〇年度予算案と併せて可決した。

(片柳悦正)



議長団を務めた秋山代議員と部原代議員



新型コロナウイルス対策費を新設、一〇〇万円を新型コロナウイルス対策引当金として計上することが了承され、会議で集まらない時のWEB会議の準備などにあてて行くとした。

**第三議題 秋年末闘争方針**

秋年末闘争については、引き続き労働条件の引き上げ、定年延長等々に取り組んでいく。冬季一時金闘争については十一月下旬を解決目標とし、要求額については、昨年同季の率・額以上とする。二一春闘に向けては、第二回中央執行委員会より、春闘要求額、産別要求についての検討をおこなっていくとしていく。

新規加入分会紹介

甲府支部ができた報告と関東地方と関西地方の新規四分會を紹介した。

一、二名の表彰を確認した。

# 港 湾 労 働

東京都大田区蒲田 5の10の2  
**全日本港湾労働組合機関紙**  
(毎月1日発行)  
一部20円 (組合員の購読料は組合費の中に含む)  
発行責任者 松永英樹

機関紙は早く  
組合員の手に

# 退任役員あいさつ

## 前副中央執行委員長(関西)

### 大野 進



#### 全港湾の歴史と 伝統の継承と発展を

私は四八年間全港湾の仲間として過ごせたことに心より感謝申し上げます。これまで先輩から教えられたことは、正しいことは正しいと言い、おかしいことはおかしいと言えることの修練であったと思っています。かつて兼田富太郎さんや吉岡徳次さんをはじめ多くの優れた指導者が多く存在し、誰もが港湾労働者の社会的地位向上と全ての弱者のために運動をされました。今、労働組合が企業内意識に埋没するなかで、全港湾と全港湾の進む方向性は自ずと

決まっていると思います。先輩たちに恥じることのない労働運動を継承することは容易いことではありませんが、その精神は忘れてはならないと思います。

全港湾で育った人たちは胸を張って今も自分は全港湾であると思っています。私も生涯全港湾で学んだことを財産にして、第三の人生を歩んでいきます。

運動の課題は複雑ではありますが、全国の仲間が絶えず団結する気概に溢れている全港湾であるので恐れることなく、信頼して行動してほしいです。私たちが生涯組合員でありますので、どんな協力も惜しみませんのでお願いします。

どうか100周年の節目にむけて奮闘されますことを心底期待いたします。

## 前書記次長(沖縄)

### 諸見 力



全港湾全国の先輩方々、同志のみなさん、全港湾第九一回定期全国大会において中央本部書記次長職を退任致しました諸見力です。改めまして、退任のご挨拶を申し上げます。

第九一回定期全国大会をもって中央執行委員を退任いたしました。関西地方出身の藤崎です。中央執行委員として一二年間、仲間の皆様さんからいただいた叱咤激励には心から感謝しております。

振り返れば、私が全港湾に加入したのが一九八八年、組合運動にはまったく知識も経験もなかったものの、阪神支部で執行委員を務めた時期には、阪神淡路大震災、そして震災を理由に解雇された六人の組合員とともに、全国闘争ともなった池添産業分会解雇撤回闘争をはじめ、決して学校の教科書では教えてはもらえない多くの学習をさせて頂きました。

取り組みを経験するなかで、産別に結集する各組合の事情は複雑で、取り組みの強化を図るには各組合相互の理解と尊重が何よりも不可欠だと改めて肝に銘じる所でした。

「ミスター全港湾」を掲げて一生懸命取り組んで参りました。この度退任となる事には今一度お詫び申し上げます。但し、組合を引退するわけではありせん。地元にもどりの再度地元の運動、組織運営に精を尽くしながら、沖縄地方本部として全国の仲間と運動を共に頑張っていく決意です。簡単な挨拶となりますが、六年間と短い期間ではありましたが、貴重な「経験」と「時」を頂きましたこと、重ねて御礼申し上げます。

## 前中央執行委員(関西)

### 藤崎良治



この度、第九一回定期全国大会において、中央本部副執行委員長にご信任を頂きまして、日本海地方出身の鈴木龍一です。改めまして宜しくお願ひ申し上げます。

さて、コロナ禍の中で開催が危ぶまれましたが、中央執行委員会でありましたが、中央執行委員会の英知と英断により、緊急事態における大会開催の仕組みを取り入れ、滞りなく開催する事ができました。また

この度、第九一回定期全国大会において、中央本部副執行委員長に信任を頂きまして、日本海地方出身の鈴木龍一です。改めまして宜しくお願ひ申し上げます。

さて、コロナ禍の中で開催が危ぶまれましたが、中央執行委員会でありましたが、中央執行委員会の英知と英断により、緊急事態における大会開催の仕組みを取り入れ、滞りなく開催する事ができました。また



副中央執行委員長として新しく選任されました、関西出身の畠山です。新規役員選任にあたり、あいさつを申し上げます。新型コロナウイルスが猛威をふるい私たちの雇用やくら

## 前中央執行委員(日本海)

### 法土豊行



これまで全国の組合員のみならずからいただいた激励や

指導に感謝申し上げます。また、家族を含め職場全体で感染対策に苦勞されている仲間のみなさんには頭のさがる思いであります。

第九一回定期全国大会をもって中央執行委員を退任しました。振り返れば一九春闘で

この四八時間ストライキを打ち抜いたことや中央港湾団交に出席したことでの交渉経過が今も記憶に残っています。ストライキは産別最低賃金問題や大手資本・国家に対する強い意志を貫き通した行動でありました。しかしながら課題の解決には至っておらず私も引き続き議論参加をします。職場では自動化問題や環境

対策などを解決するため港湾で働くものがあらゆる課題に對して一丸となつて取り組むことが求められています。また、感染症の影響により貨物の減少があり、一日も早くクチンや治療薬の開発がすすみ、安心して働ける職場となり港に貨物が戻ってくることを望んでいます。中央執行委員は退任します

# 新任役員あいさつ

## 副中央執行委員長(日本海)

### 鈴木龍一



この度、第九一回定期全国大会において、中央本部副執行委員長に信任を頂きまして、日本海地方出身の鈴木龍一です。改めまして宜しくお願ひ申し上げます。

さて、コロナ禍の中で開催が危ぶまれましたが、中央執行委員会でありましたが、中央執行委員会の英知と英断により、緊急事態における大会開催の仕組みを取り入れ、滞りなく開催する事ができました。また

同時に、新たな大会運営の中で、全ての議案を議決する事ができました。正に組合員の皆様方のご理解とご努力の賜物であると思います。心から感謝と敬意を述べさせていただきます。

新型コロナウイルスは、機に乗じて」という政治が頻りに起きている感じがします。多くは語りませんが、港湾政策についても同様に思えます。全国の仲間の皆さん、共に頑張りましょう。

## 副中央執行委員長(関西)

### 畠山昌悦



副中央執行委員長として新しく選任されました、関西出身の畠山です。新規役員選任にあたり、あいさつを申し上げます。新型コロナウイルスが猛威をふるい私たちの雇用やくら

しも大打撃を受け、改めて社会保障のあり方が問われています。

政府や財界は「国民生活は自助・共助で守れ」という自己責任論を押し付けてきました。政府が、国民生活を守るのではありません。国民生活を

副中央執行委員長として新しく選任されました、関西出身の畠山です。新規役員選任にあたり、あいさつを申し上げます。新型コロナウイルスが猛威をふるい私たちの雇用やくら

副中央執行委員長として新しく選任されました、関西出身の畠山です。新規役員選任にあたり、あいさつを申し上げます。新型コロナウイルスが猛威をふるい私たちの雇用やくら

副中央執行委員長として新しく選任されました、関西出身の畠山です。新規役員選任にあたり、あいさつを申し上げます。新型コロナウイルスが猛威をふるい私たちの雇用やくら



しかし、コロナ禍において、テレワークや在宅勤務という働き方が徐々に浸透し、マスコミでも好意的に報道される一方で「雇用とは何か」が今後大きな社会問題となっていくはずだ。

時間によらず成果による働き方、高度プロフェッショナル制度やジョブ型雇用、成果主義賃金などが広がる可能性があり、労働者性と使用者性がさらに気薄化し、新しい自己責任論が出てくる危険性が心配されます。

職場における自由と権利が空洞化し、崩れつつある社会の風潮に労働組合の存在が問われています。

労働組合が仲間の「命とくらし」を守ることを第一義にその役割の力ぎとなるのは、魅力的な活動家集団の再構築にあると考えています。

活動家の勇気は信頼できる仲間を支えられ、その発展の中から労働運動を創造し、飛躍させる展望をどう描けるかがポイントです。

憲法を主軸とする基礎理論と国民的教養を結びつけて労働運動の活動家育成に積極的に貢献しようと思っっています。

全港湾に結集する仲間の皆さん、共にならばりましょう。

**書記次長 (九州)**



豊橋で開催された第九一回定期全国大会で書記次長に選任いただきました九州地方長崎県支部の松谷哲治です。

二〇一四年から交通労働協へ派遣役員として六年間勤めて参りました。地元では反基地・反戦平和闘争を中心に地域運動に明け暮れていて、港湾以外の交通関係について知識が乏しく手探りの中での活動で、他の産別の協力もいただきたり、他交通モードについても少しだけ視野が広

たします。共に団結し頑張りましょう。

**中央執行委員 (日本海)**

**面谷真奈樹**

意見や質問が飛び交い、すさまじい熱気。その中で前方の壇上でドテンとふんぞり返っている強面の中央執行委員の方々は、とても我々と同じ人間とは思えず、近寄ることもできない恐ろしい存在に見えました。

あれから三〇年たち、まさか自分が中央執行委員になるとは思ってもみませんでした。

今年度より中央執行委員に選任されました、日本海地方の面谷真奈樹です。出身支部は境港支部です。

約三〇年前、私は縁あって現在の企業に入社し全港湾の組合員となりました。そのころはまだ青年部が全国に無く、第一回目として全国の青年部代表が一堂に会する総会が湯河原温泉で開催されました。同時開催された定期全国大会にも支部青年部員として初参加しましたが、その時初めて中央執行部なるものを目にしました。大会では厳しい

**松谷哲治**

がるとともに、国土交通省をはじめ関係各所に一定の人脈が出来たと感じています。

現在、少子高齢化による人材不足問題や新自由主義・規制緩和による格差社会拡大など厳しい局面にあります。全港湾にとっても「港の自動化」「火力発電所の廃止問題」「高速道路のETC化」など雇用を脅かす課題が山積しており、今こそ労働運動の進化が問われています。

労働運動の基本は、職場闘争にあると考えますが、急激に変化を続ける社会情勢を的確に捉え、輝ける未来のために真島委員長を先頭に中央執行委員会が「一枚岩」となり、組合員の活動の礎になれよう活動に邁進する所存です。

**中央執行委員 (日本海)**



今年度より中央執行委員に選任されました、日本海地方の面谷真奈樹です。出身支部は境港支部です。

約三〇年前、私は縁あって現在の企業に入社し全港湾の組合員となりました。そのころはまだ青年部が全国に無く、第一回目として全国の青年部代表が一堂に会する総会が湯河原温泉で開催されました。同時開催された定期全国大会にも支部青年部員として初参加しましたが、その時初めて中央執行部なるものを目にしました。大会では厳しい

**面谷真奈樹**

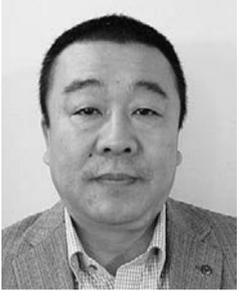
意見や質問が飛び交い、すさまじい熱気。その中で前方の壇上でドテンとふんぞり返っている強面の中央執行委員の方々は、とても我々と同じ人間とは思えず、近寄ることもできない恐ろしい存在に見えました。

あれから三〇年たち、まさか自分が中央執行委員になるとは思ってもみませんでした。

今年度より中央執行委員に選任されました、日本海地方の面谷真奈樹です。出身支部は境港支部です。

約三〇年前、私は縁あって現在の企業に入社し全港湾の組合員となりました。そのころはまだ青年部が全国に無く、第一回目として全国の青年部代表が一堂に会する総会が湯河原温泉で開催されました。同時開催された定期全国大会にも支部青年部員として初参加しましたが、その時初めて中央執行部なるものを目にしました。大会では厳しい

**中央執行委員 (日本海)**



第九一回定期全国大会にて、新たに中央執行委員に信託されました、日本海地方(新潟支部)出身の佐藤正巳と申します。就任にあたり、

**佐藤正巳**

ご挨拶させていただきます。

今回の大会においても各地方の多くの代議員から厳しい現状報告、また運動方針の補強等の発言がありました。今までは私自身も大会にて発言を行ってききましたが、今後は運動方針に基づき前進を図るべく執行する立場となりました。特にコロナ禍において、取り巻く環境が急速に悪化し

ています。当面の重要課題は「家族を含めた組合員の命と健康をまもる取り組み」「雇用と職域を守る取り組み」であり、その実現に向けて、努力してまいりたいと思

**中央執行委員 (関西)**



第九一回定期全国大会において中央執行委員に選出されました関西地方の河野照宜です。

私は一〇年以上前に解雇争議を経験した際に、背景資本を攻めるため約二か月間中央本部にお世話になりました。ピ

**河野照宜**

本部の会議室で行いました。が、まさか中央執行委員として戻ってくるとは夢にも思っ

**中央執行委員 (関西)**



第九一回定期全国大会で中央執行委員に信任を頂いた関西地方大阪支部出身の樋口万浩です。

私は一九歳の時に田舎から(岡山県笠岡市)大阪に出てきて内航沿岸作業に従事する会社に入社、試用期間を過ぎ

**樋口万浩**

スによって開催すら危ぶまれましたが、限定的緊急特例措置を確認の上、二日間にはわた

年になりませんが、この間、様々な壁にもぶつかってきま

得ない状況になりました。今後も長期にわたってコロナ禍のもとでの生活や社会活動を強いられることになると思われ

私は今も国民無視の政治が続くことは必至である。国民主権の政治を取り戻すために、早急に解散総選挙に追い込み、全港湾方針に基づき国民主権の政治を取り戻さなければならない。

私は今も国民無視の政治が続くことは必至である。国民主権の政治を取り戻すために、早急に解散総選挙に追い込み、全港湾方針に基づき国民主権の政治を取り戻さなければならない。

現在五五歳と昔であればありましたが、限定的緊急特例措置を確認の上、二日間にはわた

**大会宣言**

私たちは、愛知県豊橋市において第91回定期全国大会を開催し、格差社会を是正し、労働者の働く権利の確立と生活向上をはかり、核も戦争もない安心と共生の平和な社会をめざし、反動的な政治を許さず、大衆路線の基に産業別労働運動と地域運動、国際運動と連帯し組織強化し拡大する2020・21年運動方針を決定した。

新型コロナウイルスは、2019年12月に中国・湖北省武漢市で発生が報告され、2020年1月30日に世界保健機関(WHO)により国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態に該当すると発表され、感染が世界的に拡大した。国内においても、1月16日に最初の感染者が確認されて以降、都市部を中心に感染者数が増加し、地方においても急速に感染拡大する等、多くの感染者を生み出し、8月末時点で感染者は68,500人を超えている。国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務を行う港湾運送事業をはじめとする運輸産業においては、緊急事態宣言時においても、事業の継続を図ることが求められ、拡大する環境の中にあっても、その機能維持のため、通常業務に従事してきた。今後一層の感染予防や検疫体制の強化など労働者の保護、雇用維持と失業対策を政府に求めていかなければならない。

安倍政権は7年8か月に渡り、負の遺産を作り続けてきた。森友・加計学園問題や公文書の隠蔽・改ざん、数の力を背景にした強引な国会運営など、一強政治の弊害が拡大した。コロナ対策における国民とかけ離れた視点に不満が蔓延し、内閣支持率は政権末期症状になっていた中、安倍首相は8月28日、突如辞任を表明した。この間、安倍政権打倒を叫びましたが、労働運動の力で辞任に追い込んだ訳ではない。菅政権は安倍路線の継承を表明し、最優先課題に新型コロナウイルス感染症対策を挙げ「感染防止対策と社会経済活動の両立を図る」としているが、今後も国民無視の政治が続くことは必至である。国民主権の政治を取り戻すために、早急に解散総選挙に追い込み、全港湾方針に基づき国民主権の政治を取り戻さなければならない。

港湾においては「港湾関連データ連携基盤」の構築、「新・港湾情報システム」をはじめとする各種施策を一体的に推進することで、「ヒトを支援するAIターミナル」、「サイバーポート」の実現を目指し、2020年度中に構築し、2021年度より着手するとしている。また、コンテナターミナルにおける荷役能力の向上や労働環境の改善を図るためとして、遠隔操作RTGの導入に係る事業に対する支援制度を創設したが、労働者の権利・職域確保が前提であり、間違った規制緩和や合理化には断じて容認できない。また、環境問題としての石炭火力発電所の廃止や高速道路のETC化など雇用問題が山積し、今後の取り組みが重要となっている。

こうした、基本認識を持ちつつ、急激に変化する情勢に対応するため、菅政権を打倒し、魅力ある港湾労働の確立と全港湾運動の強化・拡大を進め、平和で公平な社会を実現するため、労働組合の社会的影響力向上を目指す。以上、新たな決意のもとに組織の総力をあげてたたかい抜くことを宣言する。

2020年9月25日

全日本港湾労働組合 第91回定期全国大会



# 全国港湾第一三回定期大会開催

## 糸谷委員長が退任、新執行体制、運動方針を確立

全国港湾は九月二十九日、(労働連)、真島中央執行委員長三十日、第一三回定期大会を(全港湾)、代り兼副委員長(日港労働)、シ・パレスで開催した。全国竹内副委員長(日港労働)、港湾の大会についても新型コロナ遠藤副委員長(検定労働)、口ナ感染症の影響を受け、代瀬戸副委員長(検数労働)、議員と役員での縮小開催となり、出席者は総勢一四四名、川書記次長(検定労働)を選全港湾からは二九名が出席した。また、全港湾からは大会議長団は山賀代議員(全港湾)と上出代議員(検定労働)が務めた。



議長団：山賀代議員(全港湾)と上出代議員(検定労働)

役員改選については糸谷中央執行委員長(日港労働)、大野中執(全港湾)、諸見中執(全港湾)、山口中執(全港湾)、應和中執(全倉運)の五名が今大会で退任をした。そして、新執行部については労働法の全港全職種適用に向けての問題、港運同盟との共同問題、産別最賃統一回答問題、指定事業体問題、認可料金復活に向けての問題、港灣は柏木中央執行委員長(日港労働)が退任をした。

関係についての問題、全国港湾規約改正の問題などについて代議員から発言を受け議論を深めた。

二〇二〇秋年末闘争については、秋の中央行動を規模縮小しながらも十一月十八日、十九日に予定し、二〇春闘については、中央委員会を二月九日、十日に開催し、春闘方針を決定、二月十七日に第一回中央港湾団交を予定したいとした。

「二〇一九年度の主な取り組み経過(案)」、「二〇二〇年度運動方針(案)」、「産別ストライキ権の確立について(案)」、「全国港湾規約の改正及び「規約・綱領・規定(規程)」の取り扱いについて(案)」、「決算予算(案)」、「二〇二〇秋年末における具体的活動方針について(案)」等すべての議案を可決、二〇二〇年度運動方針を確立した。そして、最後に大会宣言を採択し大会を終えた。(片柳悦正)



# 告知板

各地方・支部は以下の通り定期大会を開催し、新役員体制を決定した(地方順、敬称略)

- 東北地方本部
  - 八月二十七日 執行委員長 新妻秀樹、副委員長 二本柳英樹、書記 矢代正人、財政部長 吉田一夫、執行委員 藤川純、阿蘇誠、永洞光雄、長南安典、武田晴喜、高木伸司、大門智、会計監査委員 佐藤健
  - 日本海地方七尾支部
    - 八月二十三日 執行委員長 茶畑芳郎、副委員長 平野昭、書記長 中尾哲、書記次長 下地真史、執行委員 千場敦、小林創史、奥村一樹、会計監査委員 浅田男次郎、西崎讓、組合書記 深浦かおる
  - 日本海地方敦賀支部
    - 八月二十三日 執行委員長 北村司、副委員長 藤田和憲、書記長 山田明彦、執行委員 山田恭史、下畑隆寛、橋詰智章、藤田康弘、辻弘成、鈴木翔太、松田大、前川聡史、会計監査委員 岡野翔、岡本和也
  - 日本海地方直江津支部
    - 八月二十八日 執行委員長 杉田恒、副委員長 和久井好一、書記長 稲井太一、執行委員 大島哲雄、布施光広、浮塚元彦、会計監査委員 八幡一也、小林泰栄
  - 日本海地方伏木支部
    - 八月二十二日 執行委員長 法土豊行、副委員長 面谷真奈樹、副執行委員長 渡辺良、書記長 鈴木秀一、書記次長 仁井創
  - 日本海地方舞鶴支部
    - 八月二十一日 執行委員長 森口一男、副委員長 堤信義、書記長 合林真吾、執行委員 川端勇志、北原優、西野彰浩、会計監査委員 神社正悟、仁谷悟
  - 日本海地方境港支部
    - 八月二十一日 執行委員長 面谷真奈樹、副執行委員長 渡辺良、書記長 二、佐藤健寿、齋藤直樹、石原茂治、桂史浩、会計監査委員 鈴木秀一、書記次長 仁井創
  - 関東地方東京支部
    - 八月二十八日 執行委員長 古田将也、副執行委員長 河村法和、書記長 佐藤史生、書記次長 吉田直樹、執行委員 藤田真二、高山卓也、横山伸彦、中山雄飛、菅原康、原田敬、森川健一、会計監査委員 佐藤暢彦、竹田浩二
  - 関東地方横浜支部
    - 八月三十一日 執行委員長 鈴木誠一、副執行委員長 大賀隆幸、書記長 中村直樹、書記次長 木村貴弘、執行委員 縫部一彦、武山誠、荒井一美、伊藤秀雄、河西通雄、讚岐孝彦、川上省二、佐藤健寿、齋藤直樹、石原茂治、桂史浩、会計監査委員 原田雄、岡野隆之
  - 東海地方名古屋支部
    - 八月二十九日 執行委員長 杉本恒、副執行委員長 藤井将俊、宮部行哲、書記長 西脇敬、執行委員 上條清隆、彦坂伸良、羽賀達也、加藤宏昌、会計監査委員 西里恵勝、間野隆之
  - 東海地方清水支部
    - 八月二十三日 執行委員長 鈴木勝也、副執行委員長 鈴木勝也、副執行委員長 宮原弘樹、内田剛、北村亨、書記長 遠矢進一、書記次長 込山一、分会長 守田勝臣、軒田佳和、藤原茂治、佐藤健寿、斎藤直樹、桂史浩、丸山義宏、横山千春、遠藤りさ、会計監査委員 大曲祐、長谷川安次
  - 東海地方田子の浦支部
    - 八月二十三日 執行委員長 千頭和達也、副執行委員長(財政) 篠原みちる、副執行委員長 武口義人、書記長 原田雄司、執行委員 佐野正弘、八塚一真、執行委員 大野善充、副執行委員長 川上雅幸、書記長 大河原駿、執行委員 宇高良志、村永茂勝、岡田信昭、他
  - 東海地方古屋支部
    - 八月二十九日 執行委員長 杉本恒、副執行委員長 藤井将俊、宮部行哲、書記長 西脇敬、執行委員 上條清隆、彦坂伸良、羽賀達也、加藤宏昌、会計監査委員 西里恵勝、間野隆之
  - 四国地方本部
    - 八月三十日 執行委員長 橋崎正伸、副執行委員長 菅剛正、書記長 元木啓次、執行委員 伊達健太、沖隆弘、中土井寛、高橋利彰、竹田英弘、庭瀬和昭、会計監査委員 糸川智也、吉松健
  - 九州地方本部
    - 九月十五日 執行委員長 法本健吾、副執行委員長 山中直樹、書記長 小野圭一朗、執行委員 津々見英一、山田憲司、富吉賢治、部原幸司、松崎大悟、鎮西博和、白濱勲、会計監査委員 吉永嘉章、松本大輔、特別執行委員 松永英樹、松谷嶋淳充、菅沼裕介、田中英夫、松本一樹、会計監査委員 玉盛大輔、井上雅子、特別執行委員 畠山昌悦、北川伸一
  - 九州地方関門支部
    - 九月一日 執行委員長 法本健吾、副執行委員長 津々見英一、書記長 山田憲司、執行委員 守長 山田憲司、執行委員 島晋二、倉光健一、伊藤俊明、藤原讓、栗崎康幸、湊一行委員長 川上雅幸、書記長 大河原駿、執行委員 宇高良志、村永茂勝、岡田信昭、他

